

## タウンミーティング 会議録

日 時：平成22年11月25日（木） 19:00～20:32

場 所：石田交流プラザ（石田）

テーマ：1. 小中学校の再編について  
2. 自然エネルギーの利活用について  
3. 水博物館（地域観光ギャラリー）の整備について

参加者：97名

### 【事務局】

ご苦労さまです。

ご案内の時刻になりましたので、只今から平成22年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。

今年も昨年同様に市内4つの中学校校下ごとに開催することとしておりまして、本日は2日目であります。

今回のテーマにつきましては、一つ目が「小中学校の再編について」、二つ目が「自然エネルギーの利活用について」、三つ目が「水博物館（地域観光ギャラリー）の整備について」、以上3つのテーマであります。

最初に市長からこのテーマについて、約20分ご説明申し上げます。その次に、会場の皆様方からテーマについて順次ご意見、ご提言をお受けいたします。

なお、終了時間は8時30分ごろを目途として進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。この場でご発言できなかった皆様からも自由にご意見をいただきたいと思いますので、日頃から感じておられることをご記入いただきまして、お帰りの際、受付で回収させていただきますので、よろしくをお願いいたします。お寄せいただいた意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただきます。

それでは、堀内市長からごあいさつとテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

### 【市長】

皆さんこんばんは。本日は、大変お仕事のお疲れのところこのように大勢の皆様方にご参加を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃から黒部市政の進展に対しましてご理解ご協力を賜りまして心から御礼を申し上げます。

また、今年もタウンミーティングの開催にあたりまして自治振興会並びに町内会の役員の皆様方には大変ご協力を賜りました。今回は、昨年に増してご参加をいただきまして大変うれしく思っております。今ほどありましたように今日のテーマについて20分ほどお話をさせていただき、その後、忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

今、黒部市は合併して5年目に入っております。また、新しい黒部市のまちづくり計画であります総合振興計画がスタートして3年目に入ったところであります。今、新政権になって事業仕訳など色々な点で大きく変わってきているところもありますし、またこの円高、株安の状況の中で景気低迷の影響も色々出てきているわけではありますが、こういう中でも黒部市が計画しております重点プロジェクトを計画通り着実に進めることが大変重要ではないかと思っております。

また、この財政状況などが大変厳しい中で、もうひとつ黒部市が進める考え方として、これまでも進めていただいておりますが、市民と行政による協働のまちづくりでありませぬ。自己決定、自己責任のもとでいろんな施策を進めることが、地方分権の考え方でありまして、行政と市民の皆様方との役割と責任を明確にしながらまちづくりを進めていくことが大変大事だと思っております。そのために今黒部市は、協働のまちづくりガイドラインを策定し、そのルールをつくろうということで今進めておりまして、そのガイドラインにつきましてもこれから皆さん方によくご理解いただくために周知徹底をしていきたいと思っておりますので、そのことにつきましてもご理解、ご協力を賜りたいと思っております。

それでは、早速テーマの説明に入りたいと思っております。

詳細については、「課題提起」をご覧ください。

#### 【事務局】

それでは、ただいまから本日のテーマに関して、会場の皆様からのご意見やご提言をお受けいたします。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につき、テーマに対するご意見等を述べていただきたいと思います。

もう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中でできるだけたくさんの方々からご意見をいただきたいと考えておりますので、ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内でお願いしたいと思います。

ご発言される方は挙手をお願いしたいと思います。

#### 【Aさん】

石田町内会のAといいます。

2000年度まで石田小学校のPTA会長をしておりましたので、ちょっと学校再編についてお聞きしたいと思います。

現在の学校の児童数ですけれども、中央小学校と三日市小学校等は数が大変多いとなっているんですけれども、私、ずっと前から思っていたことは、中央なり、三日市小学校なりは、1つの単位地区で子供が集まっているわけじゃないというのは、皆さん、ご存じだと思うんですけれども、石田地区の中でも三日市小学校に通っている子供たちがたくさんいます。そうした子供たちの動き方ですね。地区は地区の学校に行くのではなくて、地区以外のところへ行って学校へ通っている。

そうすると、そういう子供たちというのは、よく聞くんだけれども、地区がよくわからない、校区と地区の違いがよくわからないなんていう子供たちがいるということと、その子供たちをうまく地区ごとに再編し直しすると、もうちょっと有効な児童数の確保ができ

るのでないか。小学校統合についても、単に学校同士の統合になっていますけども、そういう中で、地区という範囲を守りながら1地区1校という考え方が昔あったと思うんですけども、そういう形の中で再編を考えていただけないものかなと思います。

【市長】

ありがとうございます。校区と地区の分け方が、今、かなり違っております。特に、学校規模の大きい中央小学校とか三日市小学校などは、以前は、中央小学校というところはなく、私もそうなのですが、大布施小学校でありました。大布施小学校と三日市校区の一部と、また石田の一部も入っておられる、それから、荻生の地区。それは、道路とか、例えば8号線ができて、荻生でも、8号線の上と下で通う学校が自由に選べるようになってしまっているということが現実としてあります。

三日市にしても、例えば、東三日市の一部とか栄町の一部が三日市小学校へ行っている、中央小学校へ行っている、その辺はある程度自由になっている部分がございます、それは、やはり父兄の皆さん方の判断で行っておられるということによって大分差が出てきたのではないかと思います。

ただ一方で、地区で完全に分けてしまうと、それだけ道路整備等がいろいろ進んできた中で、地区で分けるのは現実的にはかなり無理があるのではないかなと。8号線を横断して向こう側へ通ってくださいとかいうことについては無理があるのではないかなと思っておりますので、確かにそういう意見も言われる方がおられます。

逆に言ったら、学校校区で地区を変えてくれという意見も以前聞いたことがあるんですけど、そういう訳にはなかなか現実的には、ちょっと無理かなというふうに思いますので、やはり、そういう意味では、特に旧黒部においては、10校下に小学校がそれぞれあったということが今の児童生徒数の変化だとか見てもかなり限界が近づいてきているのではないかなと思いますけども、また、そういう地区割りについても、少し見直しをする必要もあるんじゃないかと。

【事務局】

Aさん、よろしいでしょうか。

【Aさん】

今、大きな道路でくくるという話もちょっとあったんですけども、そういうことでいうと、石田地区は、今、8号線バイパスがあとしばらくすると開通しますね。そうすると、また大きな問題になってくるんじゃないかと思うんですけども、それについてはどう考えられますか。

【市長】

この後、8号線バイパスができたり、今までも、大体JRを挟んで海側と山側で生徒が分かっているような感じがしますが、今度は、8号線の中で上下というのは、少し現実的には考えづらい。8号線の上でJRの間みたいなの所の生徒が、さらにその上の小学校に行くということはなかなか考えづらいのではないかと。そういう意味では、その8号線を

渡る、そういう手段をしっかりと整備していく必要があるのかなと思います。

【事務局】

Aさん、よろしいですか。  
ほかに、ございませんか。

【Bさん】

犬山のBでございます。

私は、2番目のテーマである自然エネルギーについて質問させていただきます。

黒部市の理想としては、水を使っていくというのが市長からもご発言がありました。私ども、小さいころは、水を使って電気をとそんなことを思いながらも、実際は、それをやろうとするならば、水利権なりあるいは電気事業法、数えれば非常にたくさんあって、とてもじゃないけども、素人の者が水力発電をやろうということがなかなかできない状況であります。

そんなことからして、私の家は、一番最初は光発電、その次には風力発電をやっているわけです。結局、水力発電というのは、非常に少ない発電であっても、これは24時間発電される。そんなことからいって、やっぱりこれを推進するように、市のほうでもいろいろと支援していただきたいと思うわけです。そして、世の中の大きないろんな支障あるものをもっと緩和していただきたい。1つとしては、例えば100ワットであっても、24時間エネルギー源となるようなものですから、そういう場合は規制を緩和してほしい。そんな点からいって、市長はどのようにお考えになっているか、ご意見を聞かせていただければありがたいと思います。

【市長】

ありがとうございます。

Bさんのおっしゃるとおり、実は、水の権利、市内に流れている水で、一滴も黒部市は権利を持っていません。大きな1級河川、2級河川で流れている水はもちろんでありますし、その周辺に流れている用水についての権利は、黒部市は一滴も権利を持たないということです。水利権というのは、明治の時代に河川法ができてから100年以上たっていますが、100年以上全く変わっておりません。ですから、これまで、小水力発電をやりたいという話は以前からたびたびあったんですが、なかなか発電のための水利の許可をもらうことはできませんでした。

今、黒部市が、先ほど言いましたように、宮野用水、愛本地点で今回水力発電を市が実施することで計画を進めておりますが、今、国のほうも自然エネルギーの取り組みを推進する中で、水利権に対して少し柔軟になってきたと思います。ただし、慣行水利権、慣行というのは、光を覩るではなくて、これまでずっと流れ出た明治の時代から、昔から流れ出た、そういう権利という慣行水利権があるんですが、その範囲内で行うのであれば認めましょうと。発電水利の許可はとりません。発電水利権の許可をとらないというよりも、慣行水利権の範囲内での発電については許可しましょうということになる。

そうしますと、慣行水利権というのはどうなっているかということ、農業に使うための水

が基本ですから、例えば、愛本地点におきましても、年間で1月から3月、4月から6月と、こうやっていって、水の流してもらえる量が決まっています。一番少ないのが1月から3月で一番田んぼに水を使わない時です。毎秒0.7トンしか流れません。それで、農業で一番水を使う時期は、一番多いときは2.6トン。0.7トンと2.6トンですから、4倍近いほどの水の流れる量が季節によって変わるんですね。その範囲内での発電なら許可しますということになって、今、許可をいただけることになって、その範囲内でやろうということになりました。

ですから、国は100年以上その権利を変えない。発電水利権をとることはできます。ただ、逆に言うと、発電水利権をとったら、発電以外のことについては、今度は、田んぼの時期だけは余計流してくださいとか、そういうことは逆に言えなくなってしまいますので、あくまでも市とすれば、慣行水利権、農業のための水を最優先して、その範囲内でやらせてもらう許可をいただいたということです。それでも、これまでは、ほとんど許可されないのが通例でしたので、少し緩めていただいたかなというようなことになりました。

そこで、これだけの豊富な水があるんですから、今言ったような、そういう小水力発電などがもう少し自由に。そこで発電したら、水が途中で減っていくわけじゃありませんので、どこかを經由して、またもとへ戻るといことがほとんどですから、そういう中で、今言われるような許可を緩和してもらえよう働きかけについては、これまでも、ここ数年やってまいりましたが、これからも、宮野用水は小水力発電を1つの契機にして、ぜひもう少し緩めてほしいということについては、強く国土交通省など、国へ働きかけていきたいと思えます。

水の権利が市に一滴もないというのは、なかなか住民の皆さん方もあまり知っておられない。例えば、雪が降ったときに、詰まらない程度にもうちょっと流してくださいと言われても、実は、水の管理は我々では実際今のところできない。土地改良区さんにもお願いして、土地改良区さんは農業のための管理はするけれども、生活、ほかに利用するための水の管理の責任をもってできないということでもありますので、そういう意味では、水というものについては非常に大切ですし、難しい権利がついているということでもあります。その辺は、ぜひまた政府に働きかけたいと思えます。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。

【Bさん】

水のあり方ということについては、私の言うのは、利益、利権とかとそういうものじゃなくて、例えば、既存の用水を使って、20ワットでも、1ワットでもいいですね。それによって、田んぼの温度とか、水温、風力、そういったものが幾らでも、その日だけでも送れる。そういったようなことなので、何キロワットというよりも、非常に小水力で、そして電源を商用電力と一致しないで動かせるものだったら、はっきり言って自由にしてほしい、そういうふうに働きかけていただきたいと思えます。以上です。

【市長】

1キロワットも1,000キロワットも一緒です。昔、ダイナモを回しておられた方もここにおられると思うんですが、あのころは、勝手に回しておっただけであって、今、こういう法律を重視する時代になった中で、例えば、時々マスコミ等で、最近、隣の魚津市の方が、ほんとうに小型のダイナモみたいな発電システムをつくっておられますが、水利権のあるところでは一切使えません。どんな小さなものでも、正式に許可をとろうと思ったら、水利権があるところでは一切使えない。時々、排水等で水利権のないところがありますが、そういうところでは許可は何も要りません、水利権がないですから。水利権のあるところでは、1キロワットであろうが、100キロでも、1,000キロワットでも、小水力発電と言われるものについては、一切許可をとらなきゃならない。そのことについては、非常に厳しいということでもあります。

言われることは十分わかりますので、実は、電気宇奈月プロジェクトでも、生活用水を利用して、今、2.2キロワット、ほんとうに小さなものの許可をもらうのに、とんでもない資料といろいろ打ち合わせがあって、2.2キロのほんとうの小さな許可をもらうだけにそれだけのものが必要。100キロも1,000キロも一緒だということでもありますので、権利の緩和といいますか、そういうところはぜひ働きかけていきたいと思います。非常に厳しい審査を受けております。

【Bさん】

ほとんど変わらないと。  
努力をお願いします。

【事務局】

ほかにございませんか。

【Cさん】

犬山のCですけども、私の質問は、太陽光発電のことですけども、今現在、犬山で公民館建設のことについて地区で話が進んでおるわけですが、太陽光発電の設備をすればどうかと、そういう段階になっていると、私はこのように思っているわけですけど、黒部市のモデル事業として公民館に太陽光発電のそういうものをつくってもらえないかと考えているわけです。以上です。

【市長】

太陽光発電ですね。

各公民館の建設につきましては、地元が主体になってやられて、それに対して一定の補助をすとなっておりますので、太陽光発電を設置していただけるということについては、先進的な点で非常にありがたいと思いますが、一般家庭で、さっき言いました3キロが10万5,000円までの補助をしているのが、今、黒部市の補助でありまして、実は、国もキロワット当たり7万円。国は1キロワット当たり7万円ですから、10キロまでですけども、例えば、公民館で何キロ使われるかわかりませんが、5キロとか10キロとかであれば、7

万円かける、設置が5キロなら35万円。県も補助を出しておりますが、県は1件当たり5万円です。キロワットじゃなくて、設置1カ所について5万円出します。黒部市は1キロワット当たり3万5,000円ということで、その合計をすれば、それなりに30万になる計算になりますが、そういうものの支援をもらいながら設置をされれば大変ありがたい。

もう少し説明しますと、キロワット当たり、今、60万円から70万円ぐらいじゃないですかね、家庭用でしたら。ですから、4キロだったら280万円の設備投資をして、二、三十万円の国県市の補助をもらって、あとは10年、15年で償却していくというような考え方で設置される方がおられます。

【Cさん】

わかりました。また参考にして。

【市長】

今ほどの国県の補助について訂正します。国県の補助は12月で終了だそうです。年内で終了だということであります。市のやつは継続します。

【事務局】

そのほか、ございませんでしょうか。

時間も十分ございますので、ご発言いただければと思います。

【市長】

時間もありますので、もったいないですから、私、例えば学校再編のことについて思いつくことを少し話しますので、そのうちに、その話を聞きながらでも何かご意見なり、ご質問があれば、またお願いしたいと思います。

先ほど、映像で、平成25年ごろまでに東布施小学校と田家小学校の統合をしたいというお話をしました。なぜ25年ごろなのかということにつきましては、東布施小学校の児童生徒数の状況であります。1年生の入学も含めて、来年度の東布施の児童数の合計が、今のところ56人という想定をしております。それが、平成25年で44人、平成28年で41人になるだろうと、今の地区の赤ちゃんの数とかで想定すれば、そういうふうに移して行くのではないかと考えております。

そういう中で、実は、いろいろ国県の基準もございまして、平成24年から1つの学年が複式学級になります。これも基準が決まっております。県の基準は少し緩いですが、2つの学年を合わせて15人以下になったら複式学級にしなさいという決まりです。そういう学年が、実は、平成24年に1つの複式学級が出てまいります。それから、平成26年には、今度は2つの複式学級が出てくる予定です。そういう状況が平成24年とか26年ごろには想定できますので、できればそれぐらいまでにどうするのかというような結論というか、統合に向けていろんな議論を重ねていければなと思います。

複式学級になったときに、児童生徒に対する、勉強等に対して、先ほどもお話ししましたが、人数が少なければ丁寧に見てもらえるし、子供たちにとっては非常に手厚い点もありますが、集団の中での生活とか、体育の時間とか、運動会のこととか、スポーツ少年団

のこととか等々を考えれば、ほんとうに将来を考える上でそういう状況がいいのかなということもあります。そういう意味で、25年ごろまでに、そういう統合に向けた検討をしたというところで1つの提案をさせていただいています。

さらに、この地区からは、一般的な意見として、東布施再編の方法だけでいいのか、将来を考えれば、鷹施中学校校下で持つというふうな、小学校が1つというような、そういう時代もいずれ来るのではないかというようなことを意見として私は聞いておりますので、そういうことも含めて、今のうちから、いっぺんに3つが1つというのはなかなか難しいと思いますが、今のうちからいろんな議論を重ねながら、どのような方向で進むのかというようなことについて、やはり、地区の皆さん方の意見が、先ほども言いましたように大変大事だと思いますので、ぜひご意見賜りたいと思います。

学校の再編は大変重い話ですが、タウンミーティングは今年度、今日で2カ所目です。小中学校の再編、あまり厳しい意見が出ないです。ぜひ忌憚のないところで言っていたければいいんですけども。

#### 【事務局】

どうぞご意見のほうをお願いしたいと思います。ございませんか。

#### 【市長】

どんな細かいことでもいいですよ。前の会場のときは、跡地の利用をどうしようかという話も出ましたが、そういうことも含めて、やはり地区の問題ですから、ぜひ遠慮なく言っていただきたいと思います。

#### 【Cさん】

犬山のCです。

先ほど市長も言いましたように、今、温暖化のことで、海の水がどんどん上昇してくるということで、この前も雨が大分降ったと。私も初めてだったんですけど、石田の地区は結構床上浸水になったと。よく考えてみますと、石田に流れる川は、ほとんど横に流れている川が多い。海に入っていく水は、ほとんど石田地区はあまりない。横に黒瀬川があるか出戸川に入っていくか、横になった川がたくさんある。だから、海面が上がってくると、黒瀬の川などは、高橋川が水位が上がってくるとれ受けるところがないです。それで、石田のほとんど、消防屯所のところ、岡団地のところとかは、ずっと床上浸水になったと。そして、犬山の団地のほうまで床上まで来たということになって、だから、石田地区にどこが水がたまるということは全然今までわかっていなかった。だから、私も、消防としても、こっちへ水が出たと、またこっちが出たと。どこへ行ってもパニックになってしまったと。だから、水がどこきたかという、道路が高いもので、みんなそこへ集まってきたと。川は満杯やし、川へは入っていかないということになった。

そして、黒瀬の川も底がかなり浅くなってきたと。だから、水が上から来ると、なかなか黒瀬の川も受け入れがたいと。だから、黒瀬の川の底を少しほじくるとか、三日市からずっと川へ流れてくるやつが、石田のほうへ行くと、だんだん水が抜けなくなると。それをもうちょっと改修したり、広くしたりできないものかどうか、ちょっと聞きたいんです



けども。

【市長】

新エネルギーとちょっとはずれていますけども、せっかくですから、9月12日に集中豪雨がございました。旧黒部市の中では、これまでに経験のないような降り方でした。朝7時から9時までの2時間で約100ミリ降りました。そこで、我々が今まで想定していたような水の量じゃなかったということもありますし、今までの整備された、排水路ではさばき切れただけの水が流入しました。その結果、石田地区でも、多くのところで道路冠水とか床下浸水などがあったわけでありますが、確かに、今すぐやれることについては例えば、黒瀬川の浚渫（しゅんせつ）、底に土砂がたまっているのではないかと、浚渫せよというようなことなどについては、それはすぐにでもやらせていただきます。

ただ一方では、中には20ミリ、30ミリで冠水する場所も市内に何カ所もあるんですが、実際、日本全国の用排水路の整備については、時間50ミリまでを想定した施設になっていますので、それを超えるような時間80ミリとか、この間、南砺の雨なんかでも100ミリとかだったら、これはどこでもさばき切れないということに対して今後どうするのかということについては、大変大きな問題ですが、これまで整備してきたインフラをすべて、水のそういうことについてはやりかえるという、想定を変えていく。国の想定も50ミリまでの想定でこれまですべて整備されてきましたので、そういうものに対して今後どうするのかということについては、非常に長期的に考えていかなければならない。

特に、石田地区などについては、見た目は用水とか排水に見えるんですが、さっき言いました、農業のための排水施設であったり、用水であったりするものですから、今の雨水を処理するとかということとは想定されなくて、農業だったら農林水産省の予算のうえで整備されてきましたので、全くはけないというような状況のところは何カ所もございます。そういうものについては、県にも今、何カ所かは相談しておりますが、今後どうしていくのかというようなことについては、これは根本的な施設を改修するというようなことにもつながってまいりますので、今後、優先順位をつけながら対応していかなければならないかと思えます。そういう意味では、今すぐやれること、浚渫等についてはすぐやりますし、それ以外のことについては計画的にやっていかざるを得ないのかなという状況であります。

【事務局】

そのほか、テーマについて何かご意見、ご質問等でもよろしいですが、よろしくお願ひしたいと思います。

【Dさん】

水博物館のこと、それと、フィールドミュージアムのことについて私の意見を述べさせていただきますと、宇奈月のダム排水によって、黒部川の水底が目詰まりを起こして、そして、湧水施設が随分少なくなっているとか水の出が悪くなっている。これは事実でございます。現に、かの有名な四万十川のダムが取り壊されてもとの状態になりました。これは事実です。ダムの取り壊しなんて考えておられませんか。

## 【市長】

大変大事で難しい話なんですね。私も、黒部川の土砂管理といいますか、これが、将来のこの地域にとって最も大きなテーマになるだろうと思っております。そういう中で、黒部川の特長といいますか、毎年、黒部峡谷のほうで、我々が聞いているのは、7,000カ所以上の崩壊地があって、毎年34万立米が黒部川に土砂として流れ込んでいると、上流部。それを、昔は、ダムがない時代は、いろんな洪水などによって、それが下流のほうに自然に流されていって、黒部川扇状地一帯に埋め立てられていって、愛本まで昔は海だったということですから、日本海を黒部川の土砂が埋めて、我々は扇状地の中で生活しているという歴史があります。

それが、今もそのまま続いております。毎年大量の土砂が上流で崩壊し続けている。それを、今度は、発電許可、治水許可、そういうことでダムなどをつくってきました、人間が。そして安全に生活できるようにしてきた、あるいは、発電のために、電気のためにつくってきた。その結果、今度は、土砂が大量に上流部にたまり始めた。今、これだけ通砂や連携排砂などをご理解をいただきながらやらせていただいておりますが、例えば、鐘釣のほうで、今、三大崩壊地である不帰谷から崩れた土砂が本流のほうに迫って押し流されてきておって、今年の春、何が起きたかといったら、本流の水をとめてしまいました。それが天然ダムになって、上流部にある万年雪が溶けてしまった。それを、延々と何千年か何万年か繰り返しておるんですね。それを止めてしまった、ダムをつくったことによって、そういう自然の流れを変化させてしまった。そこで、何を国が考えるかといったら、やっぱりたまったものは流さないと、これは大変なことになるなということで、全国で初めて連携排砂、通砂等を計画してやりました。それでも、一部しか流れておりません。平均的には30万立米ほどが連携排砂などによって流されていきますが、それでも上流部は、出し平から上はたまる一方です。本流に流す力がないわけ。

それで、それをどうするのかいったら、黒部峡谷という自然景観が今のままでは大変な変化をする。黒部ダムができて約50年。50年でこれだけの変化を起こしてしまう。さらに50年たったらどうなるんでしょう。河床は、川底はひどいところは約30メートル上がってきました。不帰谷との合流地点も、私は、今年度から正式にこのことについて調査してくれということで県と国に働きかけてきました。これまでは、あの土砂はどうもできないといって今までは終わっていたんです。でも、それでは全くこの後将来、何十年か何百年先には、黒部峡谷はほんとうに、下の黒部川の河原と一緒にになります。

それをどうするのかということは、今から考えたり、議論したり、知恵を絞ったりして、おそらく動き出すまで30年ほどかかるかなと。でも、動き出せば何かの知恵であの土砂を下流へ、要は、できるだけ環境に影響のないように自然の形で下へ落としてやる。あとは、下げなかったら、永遠にたまっていくだけです。それをできるだけ自然な形で送るのが総合土砂管理という考え方ですけども、そうしない限りは、黒部川の土砂の管理というのは、非常に難しい問題になる。

また、それが無いものだから、あとは海岸部は浸食で削られるだけだと。これは当然です。上からの土砂供給がないから、波が削っていったぶんだけ海岸が下がっていくというのは当然のことですから、その辺を、やはり昔の形に近い、自然に近い形でどうやってその辺の土砂管理をするかというのは、この地域に住む者にとっては永遠のテーマになって

いくだろうかと。そのことについて、その連携排砂、今、目詰まりを起こしているということも、それもある意味ではそのとおりだと思いますが、それも含めて、自然の循環を変えてしまった我々は、どうしてここで自然と共生していくかという。

ダムをなくせというのは1つの案だと思います。ただし、そのかわり洪水は起きますよ。それには仕方がないで耐えるというのか、治水よりも自然を守るのか、ある意味では、治水を経て安全を確保しているわけですから、それとどうやって共生していくかということだろうと思います。その辺は、ダムをなくすとか、あるいはそれらも含めて、全部、ゲートをつくれと。全部のダムにゲートをつけるというのも1つのアイデアかなというふうに思ったり、黒四ダムにしたって、2億立米の水がたまっているそうですけども、いずれ土砂で埋まっていくことは間違いない事実。それは100年後、200年後かもしれないけども、土砂は流入していますから、それを流していませんからから、ですから、人間がやることは50年、100年単位では正しいのかもしれないけども、もっと長いスパンで考えたら、それはやがてはまた違った考え方に変わらざるを得ないのかなという気がします。

【事務局】

よろしいでしょうか。

そのほか、ございませんか。

【Eさん】

石田のEです。

地域観光ギャラリーについてお聞きします。観光に来る人や地域住民の方のためにこういうものをつくるという感じだと思うんですが、その内容を見ると、巨大映像装置とか衛星写真、バーチャル体験。観光客にとったら、これからリアルなものを見るというのに、わざわざここで巨大映像装置やバーチャル体験する必要があるのかというのと、地域住民の方からしたら、わざわざあそこまで行って自然体験とかをしに行くものなのか。無駄な施設なんじゃないかと思います。いかがでしょう。

【市長】

今、新幹線の新駅ができます。これが国でつくる駅舎です。今はデザインがどうだという議論をしていますが、これは国がつくる。そこで、この駅前、駅前とか駅裏というところ怒られますから、東口とか西口については黒部市が整備するものです。その中で、この絵は仮に三角形のものがかいてありますが、ここが都市機能、観光案内とか休憩所だとか、あるいはお土産屋さんとか、そういうような施設をここに、黒部市として、地元として整備する計画です。

これが、実は2階建ての計画でありまして、この1階部分は、観光案内とかお土産屋さんとか休憩所みたいなものがあるんでしょうけども、2階に600平米ほどの場所ができます。そこに、今言う、フィールドミュージアムの玄関口という形で、基本的には、フィールドですから、実際、黒部峡谷へ行ってもらったり、愛本へ行ってもらったり、生地とか石田、湧水とか、そういうところへ訪問してもらったりするために、ここで情報発信基地をつくらうよと。新幹線の駅の利用者は1日2,700人ほどが想定されておりますが、そう

いう方々とか、あるいは周辺の皆さん方が、そこで関心を持ってもらって、なら生地のまち歩きへ行ってみようとか、あるいは石田の大島海岸のほうへ行ってみようとか、あるいは釣り桟橋のほうへ行ってみようとか、そういうような情報がここで得られて、それで、また中には、愛本の芻橋というのはどういうものなのというようなことがわからないものについては、例えば昔の映像などが見られて、関心を持ってもらって、そこへ訪れてもらう。あくまでもこれは玄関口です。

水博物館というものではなくて、フィールドミュージアム、黒部川流域全体を訪れてもらうための玄関口としての情報発信基地を600平米ほどの場所の中につくれないかと。その内容については今検討中です。映像があったり、ジオラマがあったり、いろんな関心を持ってもらえるような、そういうものをそこで、600平米ですから200坪弱、百七、八十坪ですか、その中でそういうものをつくれればいいなど。

しかも、そのことについては、県の支援をもらって、県東部の玄関口ですから、富山県の支援をもらって、そういうフィールドミュージアムの玄関口の整備ができればいいのではないかと。大きな箱物をつくって、何かをそこで博物館みたいな格好でやろうということは考えていません。あくまでもその関心を持ってもらうきっかけをつくるための施設というふうに考えていますので、その中身について、もし、もっとこういうふうなものをやれというようなことであれば、それはそれでまた検討させていただきたいなど。中身はこれからです。

#### 【事務局】

Eさん、よろしいでしょうか。

ほかにございませんでしょうか。

#### 【市長】

一番厳しいご意見をいただくとおっしゃっていましたが小中学校の再編について何かございませんか。実は、中学校もいずれは、今、4つありますが、3つにしたいというふうに考えていますので、そうなれば、この地域もかなり影響する時代が来るとは思いますが、ぜひ、そういうことも含めて、何かご意見があれば手を挙げていただければと思うんですけれども。

魚津市さんは中学校2つです。滑川市さんも2つです。黒部市は4つで、入善町さんは3カ所が2カ所になった。規模だけから考えれば、黒部市に4つあるというのは多いのではないかなとは思いますが、さっきから言うように、ニーズだけではないということがありますので、ならどうするのということについてご意見をいただきたいと思います。

参考までに、今、2つの学校数の話が出ましたので、ちょっと参考までに言いますと、魚津市さんは2カ所、滑川市さんは2カ所なんですけど、実は、氷見市まで行くと、氷見市は人口5万人ちょっと、うちよりも1万人ほど多いんですが、それでも中学校が6カ所、そういうところもありますし、砺波市4カ所、小矢部市は人口3万ちょっとですから4カ所、射水市は7カ所、そういう市もありますから、決して黒部市だけが多いわけではないですが、県東部の中では少し多いほうかなと思います。

ちなみに小学校の話をしてみると、黒部市は、今現在、小学校が11校ですが、魚津市さんが13校、滑川市さんが7校、参考になるのはその辺ですが、それから入善町さんが6校、

朝日町さんが3校です。

実は、小中学校の再編については、今の考え方などで計画的には進めていきたいと思っております。そういう中で、東布施地区の説明会などもやらせていただいておりますし、PTAの皆さん方に対する説明会もさせてもらっています。年度内には、東布施さん、あるいは前沢地区にも説明会をさせていただきたいと考えておまして、とにかく地元に入って説明をさせていただいて、いろんな意見なり、議論をまず進めるということから始めたいと思います。

その結果、計画どおりになるか、多少おくれるか、場合によっては、この前のタウンミーティングの会場では、前沢地区のほうから平成30年ごろと言わんともっと早くやれというありがたいご意見もいただいたりしました。そしてその結果、そのかわり学校の跡地はこういうのをやってくれと、グラウンドはこうしてほしいとか。言われた意見ですよ。私が言ったのじゃありませんよ。校舎は高齢者施設につくってほしいということなども言われましたけれども、そういうふう発言された方もおられます。ですから、そういう意味では、いろいろご意見、条件あるでしょうけども、そういうことも含めて、最初にわっと言ってもらったほうが進めやすいのかなと思います。

#### 【Fさん】

今の再編の話ですけども、桜井中学校が今度新しくつくられるのに伴っての中学校の再編という話も出てきているんじゃないかなと思うんですけども、順番からいうと、桜井中学校の次に鷹施中学校もだいぶ古いんじゃないかなという中で、もしかしたら、今、市長さんが言われたように、3校にするのが2校にという考え方も出てきているんじゃないかなと思うんですけども、その辺はどうなんでしょうか。

#### 【市長】

中学校の生徒数のこの後の推移ですが、実は、桜井中学校はあまり減らないです。今現在、来年度は526人の予定ですが、平成28年でも、まだ500人以上生徒がいる予定です。そういう意味では、桜井中学校は500人規模の中学校ですから、それは多少の域の移動はあってでも、今、小中学校の中で一番校舎が古くて耐震度が心配視するのが、桜井中学校は50年たちますので、校舎も。私もあのままの学校へ行っていましたので、ですから、桜井中学校の改築については、現在の場所付近でできるだけ早くやらなければならないのかなと考えています。

そこで、鷹施については、28年で270人ほどになります。高志野は260人ほどになります。その時点で、宇奈月が130人ほど。そういう中でやはりいろいろ考えていかなければならないのかなと思います。ただし、要は、学校の耐震化というか安全管理の問題で、実は鷹施が耐震化されているんですね。桜井中学校は非常に心配なところです。それから、高志野は耐震化がなっていますが、体育館が古くて体育館が危険という状況です。いずれ中学校4校を3校にするということになれば、やはり普通に考えれば、鷹施と高志野で何かいろいろ工夫する必要はあるのかなと思います。

宇奈月あたりは、私の意見じゃなくて、住民の皆さんの意見で、宇奈月は、例えば小中一貫校とか、そういう意見も聞いたりしますので、これだけ距離が離れていますから、宇

奈月が少なくなったからといって、どこかの中学校と統合せえといってもなかなか厳しいところがありますので、いろんな工夫をしていかなければならない状態かなと思います。

【Fさん】

距離からいうと、舟見中学校と入善中学校が統合するじゃないですか。その距離も結構ありますので、それをスクールバスでカバーしていますけど、その辺はどう思われますか。

【市長】

学校の統合をした場合に、通学距離が延びるというケースが随分ありますので、例えば宇奈月小学校で4校を1つに、平成18年3月になりましたので、そのときには、やはり生徒の安全確保等々でスクールバス、あるいは電車通学を認めるというようなことをやっておりますので、中学校の統合にしようが、小学校の統合にしようが、やっぱり安全に通える距離というのもあると思いますので、それを越えた場合には、スクールバス等の利用というものは考える必要があると思います。

【事務局】

Fさん、よろしいでしょうか。

済みませんが、最初にお話ししておりました予定終了時間が近づいております。あとお一人のご発言とさせていただきたいと思いますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。もうお一人方、どなたかいらっしゃいませんか。よろしいですか。

ないようであります。それでは、これまでいろいろなご意見をいただきましたが、予定の時間ということで、以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思っております。

それでは、閉会にあたりまして、堀内市長から、本日お集まりいただきました皆様へのお礼も含めまして、ごあいさつ申し上げます。

【市長】

皆さん方におかれましては、長時間にわたって大変ありがとうございます。

特に小中学校の再編については、もう少し厳しいご意見がいただけるかなというふうには覚悟してきたんですが、あまり出ませんでした。それなりに皆さん方はやっぱり理解していただいているのかなと思います。そういう中で、今、国勢調査が終わりまして、まだ最終的ではないですけど、ほぼ結果が出ています。黒部の市民の方々が840人ほど5年間で減少したのかなと思います。

その中で、実は人口が増えているという地区が何カ所かあるんですが、石田は減っておるんですよ。前沢は増えています。私はこれを見ておまして、いろいろアパートとかマンションができたということもあるんですが、ところが、前沢の児童数が減ったと出てくるんです。ここ5年間で、平成17年に93人いた生徒が73人になっている。20人減っているんですね。人口は増えて、生徒が減っている。これが、さっき言われたように、学校を選べるからじゃないかなと私は想像しています。

前沢住所で三日市小学校へ通っている子供がどれだけいるのかなと。そういうことにな

ったら、さっき言った、小規模校のメリットもあるけれども、子供は自分で選ぶんじゃないだろうと思いますので、おそらく父兄の方が三日市小学校に通わせている方が多いのではないかなと。具体的なデータはとっていないですよ。ただ、人口が増えているのに生徒数が減っておるということは、やっぱり自由に選べるエリアがありますから、その方々が三日市小学校を選ばれているということになれば、それは設備が新しいとか、いろいろあると思いますが、やっぱり自由に選べる方は、自分たちが行きたい学校、それなりの適正な学校へ行かれて、選べない方は自分でもとの学校へ通っているということになれば、そういうことも含めれば、適正な学校をつくっていくのが正しいのではないかなと私は今思っています。

ですから、地区のいろんな歴史も思いもあると思いますが、やはり父兄の皆さんが通わせたいような学校をつくっていくのは我々の責任かなというふうに思いますので、ぜひ、今日は、石田の方が多様な気がしますが、このエリア、鷹施中学校校下の中でも、将来どうしていくかということについては、今のうちからいろいろ考えていただくことが必要ではないかなと思っておりまして、ぜひ、忌憚のないところを、今日はこういう場ですから、なかなか発言しづらいという方もおられると思いますので、ぜひ、たくさんのご意見をいただければありがたいと思います。

また、石田地区を中心として、8号バイパスとかJR駅周辺などのことに対して、いろんなご心配、ご協力をいただいておりますし、また、新幹線の時代が来ても、このJRの黒部駅周辺なり、JR並行在来線そのものも大変重要な計画でありますので、ぜひ、これらのことについても、これからもご理解、ご協力をいただきたいなと思っております。

今日は、大変たくさんの方にご参加を賜り、ほんとうにありがとうございます。またこれからも、いろいろご意見があると思いますが、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

ほんとうにありがとうございました。

#### 【事務局】

本日はどうもありがとうございました。

会場にお忘れ物のないように、またお気をつけてお帰りいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、先ほどお配りいたしましたアンケート用紙ですが、ご記入の上、会場の入り口の回収箱へ入れていただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、本日はどうもありがとうございました。

— 了 —